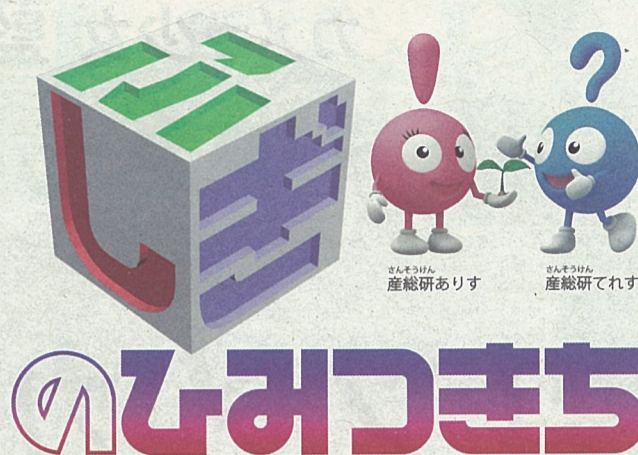


今回のテーマ

生活にかかせない大切な水



No.018

あまり気にせず使っていますが、地球上には一体どのくらいあるのでしょうか。

日本には「湯水のように使う」という言葉があります。お金などを惜しげもなく使うという意味で、このことは水が日本人にとって「豊富にあって当たり前」のものであることがわかります。一方で世界には、わずかな水さえ手に入らない、そんな場所も存在します。今回は、私たちにとって絶対に必要なのに、いつも気にせず使っている水について考えてみましょう。

◇使える水は1%弱？

地球は水の惑星と呼ばれ、表面の7割は水に覆われています。しかし、地球上に存在する水の97.5%は海水です。海水は塩分を含み、そのままでは飲み水や作物を育てるためには使えません。一方、海水以外の水(淡水)は2.5%しかありません。しかも、その多くは北極や南極などにある氷なのです。

そう考えると、使うことができる水(凍っていない水)は、



NASA Visible Earth をつかいました

地球は水の惑星ってよばれてるけどほとんどが海の水...そのままでは使えないんだって

地球上に存在する水の1%もありません。川や湖が身近にある日本では実感できませんが、このわずか1%に満たない使える水の大部分は地下水なのです。

昔は日本でも、多くの家庭に井戸があり、地下水をくみ上げて生活していました。現在でも世界の多くの地域で、飲み水や作物を育てるために毎日多く

の地下水を利用しています。実は温泉や湧き水もすべて地下水です。そう考えると地下水は私たちにとってすごく身近な存在と言えるのではないのでしょうか。

◇水をめぐって戦争？

ただ、世界ではこの地下水をめぐって多くの紛争が起こっています。今から20年以上も前

に、「20世紀は、石油をめぐる戦争が行われたとすれば、21世紀は水をめぐって戦争が起こるだろう」と予言した人もいました。そして、その言葉は日に日に現実味を帯びていて、2025年には世界の40%の人が水不足で苦しむという予想もあります。

今回は大切な水である地下水について学んでみましょう。

今日の先生



井川 怜哉さん

「地下水の博士です。小学生時代から運動と自然が大好き。今も野外での調査が大好きです！」

産業技術総合研究所(産総研)地圏資源環境研究部門。専門は、地下水の量や動きを調べる研究。出身小学校は兵庫県西宮市立香櫨園小。

さんそうけんって？

日本で最大級の公的研究機関なんだ。茨城県つくば市など、全国11か所の研究拠点があって、日本の産業や社会に役立つ技術について研究を進めているよ。

キッズむけウェブページはこちら → (さんそうけんサイエンスタウン)

